

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	(1) 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の編成 (2) 学習効果を高めるICTを活用した教育の開発と提供 (3) SSH教育の推進及び成果の発信 (4) グローバル人材の育成	① 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい新学習指導要領に基づく教育課程の編成 ② ICTを活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究と共有 ③ 探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及び国内外の教育機関との教育交流の推進 ④ 多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、交流の機会を創出し、国際性を培う。また、外部交流を増やす。	① 職員研修を通して課題を整理し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った教育課程編成作業を進める。併せて授業改善の充実を図り、共有する。 ② 課題の配信・提出、オンライン授業等ICT活用法を共有し、授業の質の向上を図る。 ③ 生徒の成果発表機会を充実させ、全教員が探究活動支援に積極関与できるように研修を実施する。 ④ 探究活動内に英語での表現を取り入れ、国際交流やコンテストなどへの参加で、異文化理解を深め、実践的英語運用能力の向上を図る。	① 課題を整理し、SSH指定校・学力向上進学重点校エントリー校に相応しい教育課程編成ができたか。 ② 各教科で目標達成のための具体策を確立し、適切にICTを活用して授業研究に臨めたか。オンラインを用いた課題配信・生徒の意見共有が進んだか。 ③ 資格試験やコンテスト等への参加の機会を拡大できたか。 ④ 探究活動に英語での表現を取り込めたか。国際交流・異文化理解を進められたか。	① 育みたい生徒像実現に向けた教育課程を編成した。年2回、教科横断的授業を実施。授業改善を進めた。 ② 分散登校時には、使用教室や時間割の検討を密に行い、ICT担当の協力し、登校対面授業と自宅オンライン授業の併用を円滑に行い、感染が急拡大した時にも、自宅療養や登校を控える生徒に対し、常時オンライン授業配信を行った。 ③ 探究的な学びの職員研修を実施。科学の甲子園や物理チャレンジ等、外部コンテストに生徒が参加した。 ④ 探究活動成果発表会に留学生を招き、英語でのポスター発表や海外高校生とオンライン交流を実施した。	① 新指導要領実施に向けて、指導と評価が一体となった授業展開について、教員間の共通認識を図る。 ② 様々な学習形態に対応できるよう、各教科で教材の検討や準備を継続していく。今後とも短縮授業など、十分な時間が取れないことが想定され、授業内容の精選や効率的な授業展開の工夫が必要である。 ③ SSH部活動を発足させ、先進的取組を行う生徒による「メラープロジェクト」の一層の伸展を図る。 ④ 台湾国立新竹高級中学との交流を共同研究に繋げる。次年度の海外研修実施計画を立て、オンライン交流を継続する。	① 教育課程編成や授業計画など工夫されている。特にSSH指定や県の理数教育推進・進学重点校エントリーなど多くの期待の中、苦労して作り上げている様子が窺える。 ② コロナウイルスの影響で分散登校、オンライン授業等と通常授業が行われず生徒、先生ともに大変だったと思う。コロナウイルスは直ぐに終息とはいかないと思うので、今年の経験を今後授業等に生かしてもらいたい。 ③ 引き続き、外部コンテストへの参加や交流を通して、「SSH教育推進」を発信しつつ大いに宣伝し、一層の進展を期待する。 ④ 海外の高校生との交流は非常に有意義だと思う。オンライン交流はお互いの文化や課題などを知る貴重な体験なので、共同研究など今後の発展を楽しみにしている。	① 育みたい生徒像実現に向けた教育課程を編成した。今後は履修指導にそのねらいが十分反映されるよう、教員・生徒ともに共通認識をはかる必要がある。年2回、教科横断的授業を実施し、授業改善を進めた。 ② コロナ禍における学習保障が重要視される中、各教科における教材研究や、ICT担当の協力により、概ね十分に対応することができた。校内の通信環境や機器の配備は十分に進んでいるが、授業配信については、事前の準備や教材の工夫などの課題がある。 ③ 探究的な学びや評価に関する職員研修を実施したが、職員研修のための講師依頼の予算が確保されにくい状況がある。科学の甲子園や物理チャレンジなど、外部コンテストに生徒が参加した。SSHの部活動の発足に向け、準備と校内での周知を行なった。 ④ 校内探究活動成果発表会に留学生を招き、全生徒が英語でポスター発表する機会を設定した。海外高校生とオンライン交流を実施した。台湾の国立新竹高級中学とのオンライン交流を開始した。	① 履修指導にあたっては、校内で十分な共通認識ができるよう、研修や生徒との面談を実施する。年2回の教科横断的授業は引き続き実施し、その学習活動を評価する。 ② 教科内の連携や協力を密にし、休校等の措置がいつ始まってもよいように、日ごろから準備を進める。また、通常の70分授業が短縮となる可能性も想定しながら授業を進めるとともに、引き続きオンラインによる同時配信など、欠席者に対するフォローを行っていく。 ③ 職員研修は職員同士で行うなどの工夫をしながら、継続して実施する。SSHメラープロジェクト部を創設し、外部コンテストに出場する生徒をより支援する体制を整える。 ④ 海外高校生とのオンライン交流は、文化交流と科学的な共同研究の目的を明確にし、より多くの生徒が参加できるよう工夫する。3学年の校内成果発表会に海外の方を招き、全員が英語で発表する機会を設定するスタイルは継続して実施する。
2	生徒指導・支援	(1) 自他を尊重し、多様性を認める社会を担う自立した人材育成 (2) 文武両道の堅持 (3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携	① 生徒一人ひとりが、自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任を弁えた行動をとれる姿勢や態度を育てる。 ② 学力向上進学重点校エントリー校における学びと行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。 ③ 校内の教育支援体制強化、支援力向上と共に、外部機関と関係構築する。	① 地域との協調を重んじ、マナーと社会性ある行動を身につけるため、通学指導を毎月行う。 ② 生徒の自主性や創造性を尊重し、自ら課題を発見、解決し運営できるように指導する。 ③ 心身共に健康的な学校生活が実現できるよう校内外の教育相談機能を活用した支援を行う。支援力を高める研修の実施	① 生徒が責任と社会性ある行動を取り、地域からの苦情等が減少したか。 ② トラブルなく円滑な学校行事、部活動等が行えたか。また、生徒の活動内容満足度が80%以上か。 ③ 支援教育校内連絡会を年3回、支援教育相談担当者会を月1回実施し、早期対応できたか。	① 登下校マナーの苦情が数件ある。 ② コロナ禍で校内生活、行事や部活動の内容変更を求め中、生徒に今なすべき課題を意識し行動をさせることができた。 ③ 支援教育相談担当者会での、緊密な生徒情報交換や対応検討により、対象生徒の生活指導に迅速に生かすことができた。	① 基本的な通学マナーについて、繰り返し周知する。 ② 生徒会活動の活性化と行事・部活動と学習の両立を図る。事故防止に努め、充実した活動に向け支援する。 ③ 学習面の不安からくる不適応などを生徒の心身の状況を早期に見極め対策やケアを行う。	① 自由と責任は表裏一体であるということが身に付くと、要求だけではなく、相手や周囲の状況を的確に判断できる社会人に育ってくれると思われる。通学マナーからは是非学んで欲しい。 ② コロナ禍で、諸活動が制約を受ける中で、生徒と対話し生徒に考えさせて、できる限りのことを実践していることに敬服し感謝する。 ③ 「文武両道」何事にも全力で打ち込める精神力があつてこそ結果が出る事を知って欲しい。	① 登下校マナーについて苦情がある。引き続き、通学路利用の市民や、近隣住民の方々との協働できる通学マナーの取組を行う。 ② 部活、学校行事などが、コロナの影響で大いに影響を受けたが、生徒へ今なすべき課題を意識し行動されることが出来た。 ③ 年3回の支援教育校内連絡会、月1回の支援教育相談担当者会を滞りなく実施し、結果、職員間で緊密な生徒情報交換を及び、対象生徒や家庭へのケアを早期に行う事ができた。	① 定期的に通学指導を行い、通学マナーの注意喚起を行った。苦情の内容を生徒へ周知し、意識改善を促した結果、苦情は減少した。引き続き、県民の声を受け止め、真摯に対応する。 ② コロナ禍で、行事や部活動は、内容変更を余儀なくされた。対応を事前に生徒へ周知し、意見集約期間を取り、環境を整え、生徒が納得した上で、生徒主体の行事を支援する。 ③ コロナ禍で人間関係が希薄になり、学業に関する悩みで不調を訴える生徒が多い。教科課題の減量や声掛けなど生徒の負担軽減につながるよう職員に周知する。
3	進路指導・支援	(1) 学力向上進学重点校エントリー校としての難関大学、スー	① 正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせ	① 探究活動、進路ガイダンス等で上級学校等が求める学生像を理解する	① 進路研修会を実施し、生徒一人ひとりのデータ等の蓄積から	① 「出願指導検討会」では、個について多面的に検討し、指導・助言資	① 私学3教科型から国公立志向の5教科型への指導をしていると聞いたが、大学入学共通テストの出願	① 「出願指導検討会」を活用しきめ細かな進路指導を実施した。課題として、会議設定調整や業務割振などに影響が出た。	① 「出願指導検討会」については「進め方」、「対象生徒の範囲」、「資料等のコンパクト化」など、検討会参加職員数も含	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		パーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の構築と推進 (2)高い次元での自己実現を目指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるガイダンスの充実と学習環境の整備	た多様なキャリア教育の構築と推進。 ①既存の取組における科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組の強化。 ①教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実。 ②セルフガイダンス力を高める機会の提供や環境の充実。	と共に学際的な興味・関心を喚起する支援を行う。 ①大学入学共通テストや高大接続に係る研修を実施し情報共有する。 ①②大学や企業等と連携し、深い知識や高いレベルの技術に触れる機会を提供し、自律的な学習を促す。 ②講習等の学習環境整備と内容の充実を図る。 ②進路に資する資料を提供する。	具体的な進路指導に繋がったか。 ①ガイダンスや面談指導を適宜実施できたか。 ②生徒が上級学校等の学問や研究、またグローバル企業等の技術に触れる機会を設けたか。 ②夏期講習、土曜講習の受講者数を増やすことができたか。 ②生徒が必要とする資料を提供できたか。	料を作成した。 ①「社会人出張講義」や「大学教授等による学部学科説明会」等、学問入門・研究に関し学ぶ機会を設け進路学習を深めた。 ②夏期講習平均受講者数の合計は682名(昨年度854名)。今年度から新たに受講を希望した生徒数を集計することにした。合計は423名であった。土曜講習平均受講者数合計は46名(昨年度123名)。受講を希望した生徒数の合計は54名だった。	工夫が必要である。 ②学習面と部活動や学校行事との両立が、本校としての最大目標である。今後も生徒が受講しやすい環境を整備するとともに、各教科と連携して、生徒のニーズに合った科目設定や教員の負担等も考慮した柔軟な講座時期・回数を設定などを検討していく。	型の推移からでは、顕著な傾向は窺えない。現実はどうなのか。評価は？ ①「出願指導検討会」の利便性は高いが、指導側の負担が大きそうである。既卒者の模範例などが作成例としてあるだけでもいいと思われる。 ①大学教授、社会人、卒業生などさまざまな人に出会うことは自分の夢を見つけるきっかけともなるので今後とも継続してもらいたい。 ②進路支援体制のひとつとして、大学や企業等との連携、社会人出張講義、夏期講習、土曜講習これらの取り組みは是非継続してもらいたい。	①模試分析及び各教科における習熟度、学習計画等について進路集会や進路通信を通してきめ細かく指導した。課題として自宅学習の充実いかに効果的につなげるか方略が必要である。 ①本校独自の「チューター制度」を積極的に活用し、コロナ禍における大学生活や学部・学科の学び、受験期の過ごし方等、有益な情報に触れる機会を提供した。課題として、この制度を定着させるために一層の広報等を工夫する必要がある。 ②年度当初の臨時休業が受講希望に大きく反映した昨年度との比較では、全体的に受講者数が減少した。教員側の負担などもあり、開講講座数も減少した。引き続き生徒にとって有益で効果的な講座を開講していく必要がある。	めてスリム化を検討・計画し実施する。 ①自宅学習等の改善策として「自宅学習(量と質)」と「進路実現」との関係性を柱に進路集会や進路通信、授業の中で具体的にデータ等を活用して指導する。 ①チューター制度の活用方法について生徒・保護者へ広く周知・広報し、生徒たちへのモデリングとして、卒業生へ一層の協力をお願いする。 ②受講者数については、基本的なデータとして推移を把握していくが、校内での講習等が必要な生徒に必要な講座を置くことが重要であり、受講者の声なども拾いながら柔軟な講座設定を検討していく。
4	地域等との協働	(1)外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供 (2)ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実 (3)本校教育活動のネットワークの拡大	①生徒による小中学校等への教育提供や外部機関との連携の場の創出 ②ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制の整備 ③地域や同窓会、PTA、等の組織と連携した安全教育・防災教育等の取組の推進 ③学校運営協議会の評価の活用	①成果発表会や科学教室の開催等地域の小・中学生が科学に興味を持てるような事業を行う。生徒探究活動やキャリア教育を支援する企業・人材を開拓する。 ②学校行事やホームページを用いて中学生とその保護者へスムーズな情報発信を行う。 ③地元自治会やPTAと連携した防災訓練等を実施する。	①参加者アンケートの回答から満足していることがうかがえたか。教育活動を支援していただける企業等を開拓できたか。 ②ホームページにわかりやすい情報提供ができたか。 ③地元自治会やPTAと連携した防災訓練等を実施できたか。	①学校説明会やホームページ、動画配信により、教育活動や生徒の様子を発信した。学校説明会におけるアンケートの結果、回答者の約87%から好意的な回答を得られた。SDGs Daysでは外部人材を活用して、学年別のプログラムを実施した。 ②CMS移行後のホームページ更新の所掌を整理した。 ③校内避難訓練のみ実施した。	①学校説明会や見学の予約が取りにくい状況がある。職員の働き方に配慮した適切な実施方法を引き続き検討する。今後、状況が許せば地域の小・中学生を対象とした科学教室等を企画する。 ②行事や部活動の結果など、中学生が学校生活の具体を感じられるよう、こまめな更新を呼びかける。 ③今後、合同訓練の可能性を探る。	①ホームページの所掌の整理など改善が見られる。特に多摩高校に関心のある方が見ていることを意識して今後もリアルタイムの更新を望む。 ②教職員の負担軽減のためにも、学校活動や部活動の詳細などホームページの活用を増やすことを検討した方がよい。 ③コロナウイルス感染症の影響で地域との交流の場が少なかったことは残念である。今後状況が好転することを期待し、交流を継続したい。 ③PTAは自転車点検等で生徒の安全確保を図る。	①学校説明会やホームページで教育活動や生徒の様子を発信し、好意的に受け止められた。一方、部活動結果等の更新が滞りがちである。また、説明会の予約は取りにくい状況である。SDGs Daysでは、外部人材を活用した学年別のプログラムでは、担当職員の負担が課題である。 ②CMS移行後のホームページ更新の所掌を整理した。 ③コロナ禍のため、地域の方に校内施設や防災訓練を見学していただくことはできたが、合同避難訓練は実施できなかった。 ③自転車点検により、生徒が安全確保について意識するきっかけとできた。	①学校説明会や学校見学は動画配信を組み合わせながら、より多くの中学生に本校情報を提供する。外部連携プログラムは、日程が集中しないようにするなど工夫して職員の負担を考慮しながら、継続して実施する。 ②部活動の成果は、PTA広報誌編集の際にホームページも更新するなど、関係グループで連携して、速やかに更新するよう呼び掛ける。 ③感染症等の状況を踏まえた上で、地域の方との合同での避難訓練は実施できるよう、内容や実施形態を模索していく。 ③自転車点検等、コロナ禍でも実施しやすい内容を企画し、充実させていく。
5	学校管理 学校運営	(1)企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成 (2)教員が教育に係る時間を確保する働き方改革の推進 (3)計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備 (4)事故不祥事防止の徹底	①企画会議と各組織・職員との双方向情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。 ②ICTの利活用を組織的に推進し、会議や資料作成・配付などの効率化を推進する。 ③工事に伴う教育活動及び安全確保を図る。 ④事故防止会議や研修を計画的効果的に行う。	①企画会議の内容を迅速に職員全体に周知することで課題を共有し、課題に応じた人材招集、意見聴取を行う。 ③外構工事に伴い、授業、行事、部活動等が円滑に行えるよう調整する。	①企画会議を中心にグループ等の連携を図り、喫緊の課題を解決するための組織体制を確立できたか。 ②仕事の効率化が図られたか。 ③各教科、生徒会との協議連携に努めて、工事期間の生徒の活動が安全に行われたか。	①職員が閲覧できるよう議事録を作成し、情報共有しながら、全職員の学校経営参画意識の向上を図った。 ②職員会議資料の電子化、業務精選・業務移管、「たまカエルの日」を制定し、業務効率化や働き方改革を推進した。 ③教育委員会等と複数回協議した。	①情報共有を密に行い、職員の学校経営参画意識向上を目指す。1人1台パソコンの活用について検討を継続する。 ②引き続き、企画会議や衛生委員会を中心に、働き方改革や業務の効率化を推進する。 ③今年度末の着工が決定したので、工事期間中の生徒の安全対策について万全を期す。	②特に校務のICT化が進む中、特定の教員に負担が行かないような工夫をお願いする。 ②先生方の働く環境を整えることもぜひ優先的に行っていただきたい。 ③外構工事は着工が決定し工事が開始されるが、生徒および周辺住民への安全・環境対策に気を配ってもらいたい。	①スクールポリシーを新たに策定し、職員会議等で全職員に周知した上で、カリキュラム等の改善を図った。 ②職員会議資料の電子化により、資料の印刷・配付等を軽減することができ、用紙の使用量の削減にもつながられた。今後は、1人1台端末の活用も含めて、業務の軽減やペーパーレス化を進めていきたい。 ③外構工事等について教育委員会と協議を重ね、年度内の着工が決定したが、当初の完工予定より大幅に遅れが生じている。	①育みたい生徒像の具現化や学校教育目標の達成に向け、校長のリーダーシップのもと、教職員の参画意識の向上を図りながら一丸となって、組織的に教育活動にあたる。 ②1人1台端末の活用について検討し、職員向けの研修会等を通じて共有を図っていく。 ③令和3年度末の着工が決定したので、近隣住民や生徒・保護者に工程を周知しながら、安全対策について万全を図りたい。

